
デジモンカード大戦記 ～世界を繋ぐ者～

G S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンカード大戦記 〈世界を繋ぐ者〉

【Nコード】

N6342T

【作者名】

GS

【あらすじ】

絵を描くのが趣味の高城^{たかじょう} 千夏^{ちなつ}と幼なじみの仙道^{せんだう} 梨華^{りか}は突如起こった地震で住んでいた世界を失う。しかし、ある男から自分の世界を元に戻す方法を聞いた千夏達はパートナーデジモンのドルモンとあらゆるデジタルワールドを巡る事になる。この旅で千夏達は様々な出会いを経験して成長していく…。

PROLOG

「???」

小さなサッカーグラウンドで元気よく走り回ってサッカーをしている子供達。

しかし、1人だけグラウンドの隅で走り回っている少年がいた。

「???」「ねえ、千夏^{ちなつ}絵^えばかり描いてないでこっちでサッカーしようよ。」

千夏「・・・あのな^{りか}梨華。俺が体動かすの苦手なこと知ってるだろ。」

梨華「別に下手でいいじゃないの、そうだ！私が練習に付き合ってあげるから頑張ろうよ！」

千夏「いいって、俺は動くよりこうやって絵を描いてる方が楽しいんだよ。」

梨華「また、そうやって。とにかく、一緒にやるの！」

梨華は無理やり千夏の腕を引っ張る。

千夏「痛い痛い！！分かった！分かったから！」

梨華「分かればいいのよ。さあ、行こ！」

2人が歩き出した瞬間、大きな地震が起きた。

ゴゴゴ…ゴゴゴ…!!

梨華「な、なに!? 地震?!」

千夏「梨華、伏せろ!」

しばらくすると、地震は収まった。

千夏「こ、これは!」

千夏達が顔を上げると周りにあった建物は倒れ、おびただしい瓦礫に成り果てていた。

梨華「…嘘でしょ…?」

千夏「…とにかく、家に戻るぞ!」

梨華「う、うん!」

2人は自分達の家がある方に向かった。

しかし、2人は気付かなかった。走る2人を見つめる謎の影があった事とこの出来事が彼ら冒険の始まりだということを…。

NEXT・EPISODE…

デジタル・ライド（前書き）

感想・要望どしどし応募してます〜！

デジタル・ライド

く千夏の家く

千夏「：くっそ！母さん！父さん！返事してくれ！」

千夏は精一杯声を張り上げて叫ぶが返事はない。すると…

???「きゃくく！！！」

梨華の声ではない少女の悲鳴が外から聞こえてきた。

千夏「悲鳴！？誰かいるのか！？」

千夏は急いで外に飛び出た。

く破壊された道路く

???「グオオオ！」

少女「はあっはあっ…！！！」

千夏「大丈夫か！？…って恐竜！？」

少女「逃げて！あれはティラノモン…デジモンよ！！！」

千夏「デジモン！？」

ティラノモン「フアイヤーブレス！」

少女「きゃっ!？」

少女は間一髪避けたが、石に躓いてしまい転んだ。その時、少女が持っていた物が千夏の近くに落ちた。

??? 「ピピピ…!!」

少女「Dーセルダーが!？」

携帯に酷似したDーセルダーが突如、輝き出し千夏の前まで浮かんできた。

ティラノモン「グオオオオ!」

ティラノモンが千夏めがけて向かってくる。

少女「いけない!君、このカードをDーセルダーに差し込んで!」

少女は持っていたカードを投げた。

パシッ!

千夏「わ、分かった!」

千夏は言われた通りカードをDーセルダーの上部分にある溝に差し込んだ。

少女「エンターキーを押して!」

千夏はDーセルダーにあるENTERと書かれたキーを押した。

Dーセルダー《リアライズ、ドルモン!》

するとDーセルダーの画面から大量のデータが出てきて、ある形になった。

ティラノモン「ガァ!？」

???「てめえー、よくも好き勝手してくれたな。きっちり代金払ってやるから受け取りな!《メタルキャノン!》」

ティラノモン「グワァァァ!？」

ティラノモンは突然の攻撃に倒れた。

???「へっ!呆気ねえな!」

千夏「…な、なんなんだお前!？」

???「俺か?俺はドルモン、Dーセルダーの持ち主…つまりお前のパートナーデジモンだ。」

千夏「パートナーデジモン?」

少女「千夏、後ろ!」

千夏「えっ!？」

???「《シャドウ・シックル!》」

ドルモン「危ない! 《メタルキャノン!》」

千夏めがけて飛んできた鎌鼬はドルモンのメタルキャノンで相殺された。

千夏「またかよ!?! いったい何匹いるんだよ?!」

少女「あれは…スナイモン!」

ドルモン「へっ何匹いようが関係ねえ! さっさと片づけて…」

??? 「《アイシクル・ロッド!》」

ドルモン「なにっ?! グアアア!？」

突如、飛んできた大きな氷柱がドルモンを弾き飛ばした。

千夏「なっ?! ドルモン、大丈夫か!？」

少女「この技は…!!」

千夏「次は…雪男かよ…?!」

少女「まさか、モジャモンまで…このままじゃ…!!」

ティラノモン「グオオオオ!」

千夏「おいおい、流石に…やべえな…!」

少女「こうなったら…千夏！これを！」

少女は千夏にカードケースを渡した。

少女「その中にあるカードをDーセルダーに差し込んで、ENTERキーを！」

千夏「なっ！？…一か八か…やるしかねえか！」

千夏はカードケースから一枚のカードを取り出しDーセルダーに入
れてENTERキーを押した。

Dーセルダー《デジタル・ライド、グレイモン！》

すると、倒れてたドルモンが輝き出した。

ドルモン「これは…！？力が溢れてくる…！」

そして、ドルモンを構成するデータがみるうちに分解され新
たなデジモンが現れた。

グレイモン「爆裂進化！グレイモン！」

千夏「ドルモンの姿が変わった！？？」

少女「あれが、デジタルワールドに伝わる伝説の力、デジタル・ラ
イド！」

千夏「デジタル・ライド…！？？」

少女「かつて、デジタルワールドを救った選ばれし者のパートナー

デジモンの偉大な力を使うことが出来るまさに最強の力よ。」

スナイモン「キシャー！！！《シャドウ・シックル！》」

スナイモンの攻撃はDグレイモンに直撃した。

千夏「ドルモン！？」

Dグレイモン「…安心しろ、千夏。あんな奴の攻撃なんぞ、全く効かねえな。」

土煙から現れたDグレイモンは全くの無傷だった。

千夏「すげえ…！？」

少女「…グレイモン、最初にデジタルワールドが危機に陥った際、八人の選ばれし子供達と共に闘った勇気の力を持つデジモン…！」

スナイモン「シャッ！！？」

Dグレイモン「食らえ！《メガフレイム！》」

スナイモン「キシャー…！！！！」

Dグレイモンの口から放たれた火球をスナイモンは避けようとしたが間に合わず直撃して消えていった。

Dグレイモン「な、なんだ！？急に力が？！」

突然、Dグレイモンはさっきよりも弱々しい光を放ちドルモンに戻

った。

ドルモン「な、なんでだ!？」

千夏「もう一度、カードを…!?! ってカードの絵がモノクロに!?!」

少女「別のカードを使うのよ!」

千夏「なら、このカードだ!」

千夏は再びカードをDーセルダーに差し込んでENTERキーを押した。

Dーセルダー《デジタル・ライド、エクスブイモン!》

ドルモン「きたきたー!!!」

ドルモンが再び輝き出し、古代の力を宿したデジモンに変わった。

Dエクスブイモン「豪勇進化! エクスブイモン!」

少女「エクスブイモン、通常とは違う進化であるアーマー進化が可能な古代種デジモンで、潜在能力は計り知れないデジモン。」

モジャモン「《アイシクル・ロッド!》」

Dエクスブイモン「遅い! 《ストロング・クランチ!》」

Dエクスブイモンはモジャモンのアイシクル・ロッドを簡単に避け、嵐のようなラッシュを喰らわした。

モジャモン「ウォオオオ!!」

Dエクスブイモン「トドメだ!《エクスレーザー!》」

モジャモン「ウガアアアアア…!!」

モジャモンはエクスレーザーを喰らい消滅した。

Dエクスブイモン「すげえな…、デジタル・ライドって。」

ティラノモン「グオオオオ!!」

Dエクスブイモン「うわっ!?!」

Dエクスブイモンが油断した瞬間、ティラノモンが襲いかかった。

Dエクスブイモン「いい加減しつけえーぞ!《エクスレ…》」

Dエクスブイモンがエクスレーザーを放とうとした瞬間、またも輝き出しドルモンに戻った。

ドルモン「またかよ?!」

ティラノモン「《ファイヤーブレス!》」

ドルモン「うわっ、危ねえ!?!」

ティラノモンのファイヤーブレスはドルモンのギリギリ頭の上を過ぎた。

ドルモン「ちっ、千夏！次のカードを早く！」

千夏「なら、これだ！」

Dーセルダー《デジタル・ライド、グラウモン！》

Dグラウモン「灼熱進化！グラウモン！」

少女「グラウモン、ある少年の願いから生まれ、災厄をもたらすといわれるデジモンに現れるデジタルハザードを持つデジモン。その闘争本能はデジモンの中でも強い。」

ティラノモン「グオオオオ！！」

ティラノモンはDグラウモンめがけて突進してきた。

Dグラウモン「一気に片を付けてやるぜ！《プラズマブレイド！》」

ティラノモン「グワアアア！！」

Dクラウモンは両腕についている突起に電気を流し込みティラノモンを切り裂いた。

ティラノモン「《ファイヤーブレス！》」

Dグラウモン「《エキゾーストブレス！》」

ファイヤーブレスとエキゾーストブレスが激突したがエキゾーストブレスがファイヤーブレスを押し込みティラノモンごと消し去った。

ティラノモン「グオオオオ…!!」

Dグラウモン「ハア…ハア…流石に疲れたぜ。」

するとDグラウモンはドルモンに戻った。

千夏「ありがとう、ドルモン。」

少女「本当にすごかったわね、デジタル・ライドの力。」

ドルモン「ああ、だけどあれ使った後かなり疲れるぜ。」

千夏「ところで君は一体何者なんだ？」

少女「教えてあげてもいいけど、千夏の彼女はいいの？」

千夏「そういえば、梨華遅いな。確か僕の家の前で…まさか…!」

少女「急いだほうがいいんじゃない？」

千夏「いこう、ドルモン！」

ドルモン「おう、任せろ！」

千夏とドルモンは梨華の家まで駆けていった。

少女「高城千夏とドルモン…いろいろと楽しみね。ふふふ。」

NEXT・EPISODE…

決意の旅立ち（前書き）

やっと、完成しました。なかなか書けなくて大変でした。しかも、中身がグダグダしてますが感想などお待ちします。

決意の旅立ち

〽梨華の家〽

梨華「お母さ〜ん、お父さ〜ん！居るなら返事して〜！」

精一杯に声を張り上げて叫んだ時、階段側から物音がしてきた。

ガタツガタツ

梨華「なっなに！？お父さんなの？それともお母さん？」

梨華は気になって階段側に近づいた。

千夏「梨華、そこから離れろ！」

梨華「えっ、千夏？」

千夏が声を張り上げた瞬間、階段側から竜のような生物が現れた。

????「シャーッ！！！」

梨華「きゃー！！！」

千夏「梨華ー！ドルモン、頼む！」

ドルモン「任せろ！《メタルキャノン！》」

????「キシャー！！？」

竜のような生物はドルモンのメタルキャノンを喰らい怯んだ。

千夏「梨華、大丈夫か!？」

梨華「う、うん。だけどあれなに!?!何が起こってんの!?!」

千夏「それは…。」

ドルモン「千夏!話は後だ!まずはこいつを倒すぞ!」

千夏「ああ!」

ドルモン「《メタル…》」

???「《アイスアロー!》」

ドルモン「ぐわああ!?!」

ドルモンが技を放とうとした瞬間、敵の攻撃がドルモンにあたった。

千夏「ドルモン!?!」

ドルモン「ちくしょう!」

少女「千夏!デジタル・ライドよ!」

千夏「き、君は!?!さっきの…。」

???「シャーッ!?!」

????は千夏めがけて突進してきた。

千夏「うわっ!?!」

間一髪、????の突進を避けた。

少女「シードラモン相手にドルモンじゃ無理よ!デジタル・ライドを使うのよ!?!」

千夏「分かった!行けるか、ドルモン!?!」

ドルモン「へっ、あたりまえだ!」

千夏は、Dーセルダーを取り出しカードを差し込んでENTERキーを押した。

Dーセルダー《デジタル・ライド、アグニモン!》

すると、ドルモンが輝き出し、ドルモンは別の人型デジモンに変化した。

Dアグニモン「古代進化!アグニモン!」

少女「あれは、アグニモン!古代の十体の究極体デジモンの1体、エンシェントグレイモンの力を受け継いだデジモン。」

シードラモン「シャッ!《アイスアロー!》」

Dアグニモン「へっそんなもん、当たるかよ!」

Dアグニモンは軽々とシードラモンのアイスアローを避けた。

Dアグニモン「次はこっちの番だ！《サラマンダーブレイク！》」

Dアグニモンは手甲から炎を作り出し回転したままシードラモンめがけて強烈な蹴りを喰らわした。

シードラモン「ギャッー！！」

Dアグニモン「こいつでトドメだ！バーニングサラマンダー！」

Dアグニモンは超高熱の2つの火球をシードラモンにぶつけた。

シードラモン「グギャー！」

シードラモンは消滅した。

梨華「お、終わったの？」

少女「まだよ！Dアグニモン、後ろ！」

Dアグニモン「なに！？」

???「《サンダークラウド！》」

Dアグニモンは飛んできた雷の上にジャンプして避けた。

少女「あれは、ウィザーモンよ！」

Dアグニモン「まだいたのかよ!? なら…。」

Dアグニモンはもとのドルモンに戻った。

千夏「ドルモン、連続デジタル・ライドだ!」

Dーセルダー《デジタル・ライド、ジオグレイモン!》

Dジオグレイモン「爆熱進化! ジオグレイモン!」

少女「ジオグレイモン、大地の力を持ったジオグレイモンの亜種。その力はグレイモンと同等以上の力を発揮することができる。」

ドルモンがデジタル・ライドするともう一体のデジモンが現れた。

???「グギャー! ! ! 《シザーアームズ!》」

梨華「きゃーっ! ?」

???は梨華を挟もうと突進してきた。

千夏「何!? 伏せろ、梨華!」

梨華「きゃっ?!」

Dジオグレイモン「千夏! ?」

少女「あれは、クワガモン!」

千夏は梨華を無理やり伏せさせ、攻撃を避けた。

D ジオグレイモン 「千夏、無事か!？」

千夏 「ああ、何とかな。それより、あいつらを倒せ！」

D ジオグレイモン 「任せろ！」

ウィザーモン 「ハァー！サンダークラウド！」

D ジオグレイモン 「効かねーんだよ！《ホーン・インパルス！》」

D ジオグレイモン は雷をうけながら、ウィザーモンを頭の角でぶっ飛ばした。

D ジオグレイモン 「消え失せろ！《メガバースト！》」

ウィザーモン 「ウワァァァ！！」

ウィザーモン は高熱の光線を受けて消え去った。

D ジオグレイモン 「次は…」

クワガーモン 「《シザーアームズ！》」

D ジオグレイモン 「うわあああ!？ちっくしょう後ろから攻撃なんて卑怯だろうがあああ!！」

クワガーモン 「ギャッ!？」

D ジオグレイモン は無理やりクワガーモンを離して地面にぶつけた。

その瞬間、ドルモンに戻った。

クワガーモン「ギャツギャツギャツ!」

クワガーモンはまた飛び上がりまるで笑い声のような鳴き声を出した。

ドルモン「はあっはあっ、次で終わらせてやるぜ…。千夏!」

千夏「分かった!これでラストにしてやる!」

Dーセルダー《デジタル・ライド、シャウトモンX2!》

DシャウトモンX2「融合進化!シャウトモンX2!」

少女「シャウトモンX2、2体のデジモンがデジクロスという力で合体したパワーとスピードを備えたデジモン。」

クワガーモン「シャー!ツ!《シザーアームズ!》」

DシャウトモンX2「何度も何度も同じ技が効くかよ!《アームバンカー!》」

DシャウトモンX2はクワガーモンの攻撃を避けて、強烈なパンチを放った。

クワガーモン「グギャー!」

クワガーモンは再び飛び上がり、逃げようとした。

千夏「あいつ逃げる気か!?ドルモン!」

DシャウトモンX2「逃がすかよ! 《バディブラスター!》」

クワガーモン「グギャー!!」

クワガーモンはバディブラスターを避けきれずそのまま消滅した。

DシャウトモンX2「はあっ…はあっ…さすがに疲れ…るぜ。」

DシャウトモンX2は前に倒れてドルモンに戻った。

千夏「大丈夫か、ドルモン!？」

ドルモン「ああ、ちよつと疲れただけだ。」

梨華「こ、今度こそ終わったの…?」

千夏「ああ、多分な…。」

少女「残念ながらこれは始まりにすぎないわよ。」

梨華「えっ!?! どういう事!？」

少女「これはまだ序章にすぎないって事よ。」

千夏「君は一体何者なんだ…?」

少女「私は宮城^{みやぎ} 羽矢^{はや}あなた達に会わせたい人がいるの。」

すると羽矢は首に掛けていたペンダントを掲げた。

…するとペンダントが輝き出し辺り一帯が光に飲み込まれた。

「謎の空間」

千夏「…ここは!？」

梨華「辺りが真っ白…。」

ドルモン「なんにもないな…。」

「???」「ここはどこの世界にも属さない空間だ。」

千夏達が辺りを見回していると、羽矢とスーツを着た男性がいた。

千夏「お前は一体誰だ…?」

「???」「俺は…ただの勇気を失った男だ。」

千夏「はあ?」

「???」「俺のことはどうでもいい、それよりお前たちの事だ。」

梨華「私達の街に一体何が起こってるのか知ってるの!？」

「???」「ああ、お前達の世界は数多のデジタルワールドの融合によって消えかけている。」

ドルモン「デジタルワールドの融合?」

羽矢「そう、すべてを支配しようとする組織…アグレイションによ

ってね…。」

千夏「アグレイション…？」

???「このままだとお前達の世界は消え…そして、アグレイションに支配される。」

梨華「そんな…!？」

ドルモン「それを見ているしかできないのか!？」

羽矢「方法はただ一つ、イグドラシルを復活させること。」

千夏「イグドラシル…？」

???「イグドラシルはデジタルワールドの神だ。イグドラシルの力を使えば、世界の融合を止められる。」

梨華「なら、そのイグドラシルを復活させればいいのね!!？」

羽矢「だけど、イグドラシルはアグレイションの大幹部達セブン・ディスターによって倒されて、バラバラにあらゆる世界に封印されたの。」

ドルモン「なら、どうやって探すんだよ!？」

???「そのDーセルダーはイグドラシルの力を感じその世界に飛ぶことができるんだ。」

千夏「つまり、俺たちにイグドラシルの欠片を探せってことか…？」

??? 「そういう事だ…。」

梨華 「そんな…無理よ！私達、まだ中学一年なのよ!？」

羽矢 「かつて、デジタルワールドを救った子供達はほとんどが小学生よ。」

梨華 「でも…!!」

千夏が優しく梨華の肩に手をやった。

千夏 「大丈夫だ、俺たちの世界は俺が守る！」

ドルモン 「待てよ、俺達だろ？俺もいっしょだぜ！」

千夏 「ドルモン…！ありがとうな。」

梨華 「千夏…。」

千夏 「それで、頼みたいことがある。」

??? 「なんだ？」

千夏 「梨華を…世界が元に戻るまで安全な場所に居らせてくれないか？」

梨華 「えっ、千夏!？」

千夏 「お前を危険なことにあわせたくないんだ。なあ、頼む。」

??? 「分かった。では…」

梨華 「まって！あたしもいっしょに行く！」

千夏 「梨華！？」

梨華 「お願い！あたしは千夏と一緒にいたいのでお願い…！！」

梨華 は涙を流しながら千夏に抱きついた。

千夏 「分かった。お前は必ず、俺とドルモンが守ってやる！」

ドルモン 「任せとけ！」

梨華 「ありがとう、2人共…。」

??? 「決まったようだな。これは餞別だ。」

梨華 の手に光が現れ、最新型らしきパソコンがあらわれた。

羽矢 「それはデジライザー。あらゆるデジモンのデータが見れるわ。」

??? が手を翳すと千夏達の後ろに扉が現れた。

??? 「あの扉は別の世界に繋がっている。行って世界を救うんだ。」

千夏 「じゃあ、行くぜ！」

ドルモン「おう！」

梨華「うん！」

千夏達は扉を開け、飛び込んだ。

そして、扉は閉まった。

???「頼んだぜ。」

羽矢「本当に良かったのこれで?…太一。」

???「ああ、そうだろ?アグモン、みんな…。」

NEXT・EPISODE…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6342t/>

デジモンカード大戦記 ～世界を繋ぐ者～

2011年10月9日04時50分発行